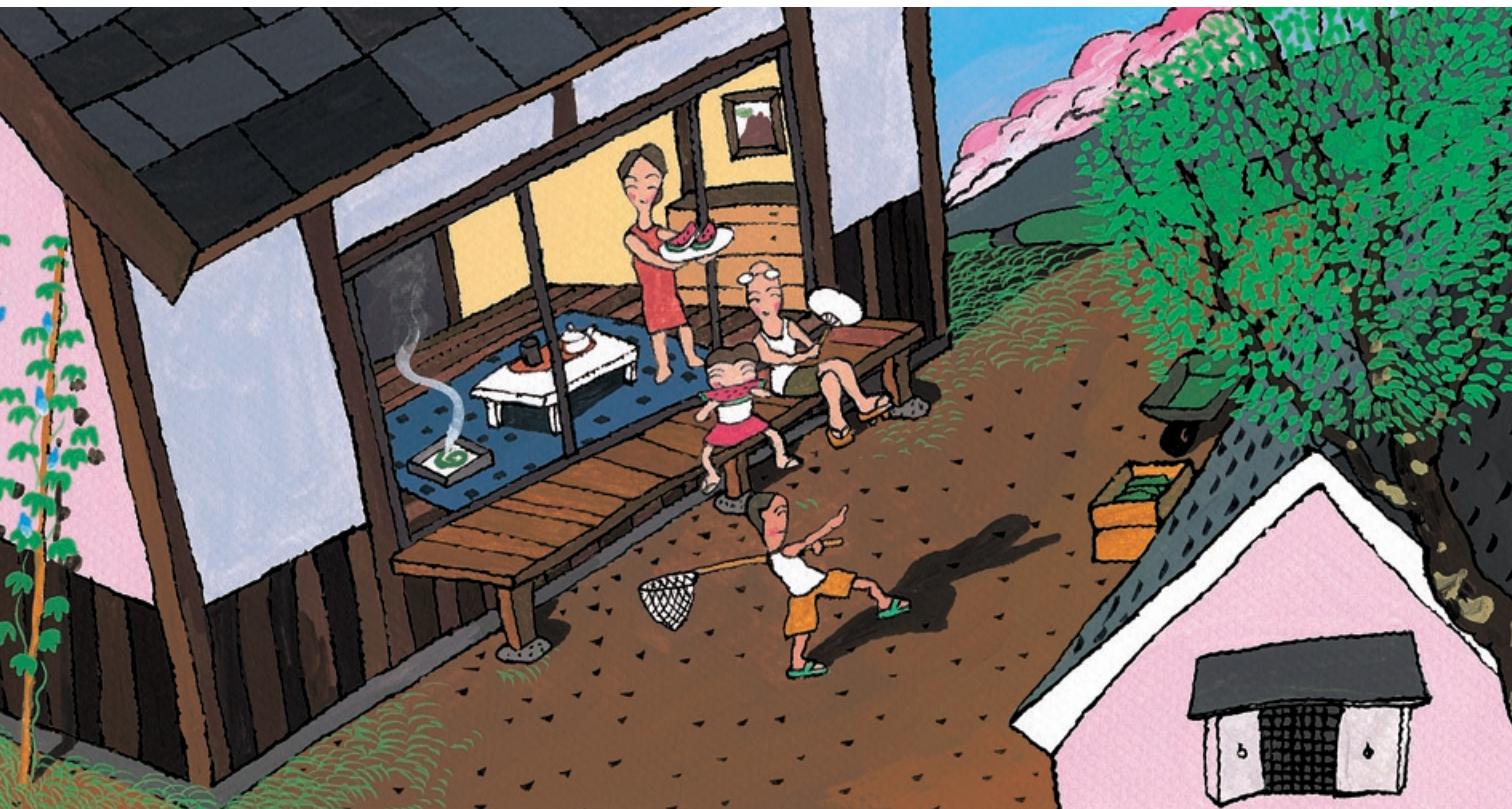


第87期 事業報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで



KOA株式会社



KOAからのメッセージ

私たちは、「循環・有限・調和・豊かさ」を
企業経営の価値観に置いています。



創業のビジョン 「農工一体」と「伊那谷に太陽を」

KOAは、かつて農村というコミュニティが崩壊していく中で、ひとりの青年が農村の生活基盤づくりと安定した暮らしをこの地で実現しようと興した会社です。以来、創業者の「伊那谷に太陽を」という夢をかなえるために、「農工一体」というビジョンをめざし、経営が実践されてきました。お百姓がお百姓として暮らしていける環境をつくる、それが創業当時の時代の声でした。

企業ミッション KOAを支える「5つの主体」との 信頼関係構築

そうした先人の意志を引き継ぎ、また今の時代の声に耳を傾けたとき、KOAは、株主様、お客様・お取引先様、地域社会、社員・家族、地球との信頼関係の構築に努めることを企業のミッションといたしました。KOAの経営は株主様をはじめとして、皆様とのお縁に恵まれ、お力添えをいただいで成り立っています。KOAは皆様とお近づきになれたことに感謝し、お付き合いの中で学ばせていただきながら、これらすべての主体にとっての企業価値を高めるため、企業活動に取り組んでいます。

企業経営の価値観 「循環・有限・調和・豊かさ」

企業という存在が、過去にないほど大きな影響力を全世界的に、そして地球規模でもつに至った現在、的確な時代認識の上立った経営・企業活動が求められていると私たちは考えます。20世紀は人口爆発に代表されるような「拡大・無限・征服・利便性」といった人類本位のコンセプトの時代であり、そうしたことのために人類のみならず地球上のあらゆる存在が存続の危機を迎えているのではないのでしょうか。そんな時代の切なる声に対して、私たちは「有限」の考えに立ち、人類を生かしてくれている地球環境とそこに生を受けたすべての生きとし生けるものとの調和を図り、拡大から循環、利便性から調和の中での豊かさを求めるべきではないかと考えます。KOAは企業経営の価値観を「循環・有限・調和・豊かさ」に置き、「地球あっての人類、人あっての経営」という空間（場）を、企業活動の中にできる限り設ける努力をしています。さまざまな人々のお縁あってこそKOAの経営が成り立つことを忘れずに、またその人類を生かしてくれている地球との調和を念頭にこれからも企業経営を進めてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、第87期（2014年4月1日から2015年3月31日まで）事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

われわれを取り巻く電子部品業界の成長は、市場の変化によりその中身が大きく変わろうとしています。例えば自動車分野では、環境問題への対応として90年代から電子化が本格的に動き出し、エンジンの低燃費化も加速されてきました。しかし、それらの動きはまた新たな技術的課題を生み、KOAをはじめ電子部品業界は迅速な解決が求められてきました。ここでは、KOAが電動パワーステアリング（EPS）に使用される新製品をお客様と共に創り上げたひとつの事例を紹介します。

初期のパワーステアリングはエンジンで駆動する油圧式で、低燃費化のひとつの阻害要因となっていました。そこで次に開発されたのがEPSです。EPSは、操舵力補助を電動モーターに変更することによって、エンジンの負荷を軽減しました。しかし、初期のEPSは油圧式に比べて操舵性に若干違和感があったため、モーターをECU（電子制御ユニット）を介してきめ細かく制御することでその改善を図りました。そしてこの技術は、今後普及していく運転支援機能のひとつである車線維持支援システムや自動運転にも大きく貢献しています。

EPSのきめ細かい制御のためには、モーターを流れる電流を高精度で検出する必要がありますが、そこで活躍しているのがKOAのシャント抵抗器です。シャント抵抗器は抵抗体に金属板を使用することで、ごく低い抵抗値で回路に流れる電流を精度良く検出することができますが、KOAはさらに車載の厳しい温度環境下でも高い信頼性が発揮できるよう、熱による膨張収縮に強い電極形状を開発するなど、お客様の声に保有する基盤技術を駆使してお応えし、大変お喜びいただきました。



EPSに限らず、現在進むイノベーションを支える重要なキーワードのひとつが「センシング」であり、今後大きな成長が期待できる分野だと私たちは考えています。KOAは、抵抗器のリーディングカンパニーとして培ってきた技術をこうしたセンサー分野に展開していきます。また素子製造のみならず、出力信号の処理回路をモジュール化してご提供するなど、お客様にとって一層使いやすい技術・製品開発を進めてまいります。

KOAは、このようにイノベーションの動向を予測し、そこで必要とされる技術や製品開発に今から経営資源を投入し、お客様と共に新たな市場を構築する活動を一層加速してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

コーア
KOA株式会社

代表取締役社長 花形 忠男

営業の概況

2014年度の実績

売上状況

2014年（暦年）の全世界における固定抵抗器需要は3,200億円となり、昨年に比べ10%ほど増加したものと推定しています。地域別に見ると、ヨーロッパと北米では、為替の影響と自動車向け市場の拡大により増加、日本は横ばい、アジアは為替の影響と、スマートフォン、タブレットPCや、自動車向け市場の拡大により増加しました。

KOAグループの売上高は、日本では、昨年4月からの消費税増税の影響による、自動車向け需要の落ち込みや、冷夏によるエアコン需要の減少などがあり、昨年と比べ2%減少しました。北米では、引き続き自動車向けを中心に市場が堅調に推移し、11%増加しました。アジアでは、中国での家電向けが下期に落ち込みを見せましたが、アセアンでの自動車や家電向けなどが拡大し、全体では5%増加しました。ヨーロッパでは、計測器、半導体製造装置などの産業機器や、自動車向けなどが拡大し、7%増加しました。

収益状況

当期業績は、売上高465億95百万円、営業利益36億77百万円、経常利益46億47百万円、当期純利益34億23百万円となりました。対前期比では、売上高17億円（3.8%）増、営業利益4億48百万円（13.9%）増、経常利益8億33百万円（21.9%）増、当期純利益9億92百万円（40.8%）増と、増収・増益という結果になりました。

この大きな要因は、為替レートが大幅に円安となったことによるものです。対前期比では、USドルでは約10円、ユーロでは約3円の円安になっています。当社業績への為替の年間影響額は、USドルの1円の変動につき、売上高で

は約1億90百万円、営業利益では約1億20百万円です。

営業外収支は、9億70百万円のプラスになりました。これは、為替差益3億80百万円、新工場建設に対する助成金の交付3億円などによるものです。

貸借対照表

当期末の総資産は699億72百万円となり、前期末に比べて、59億93百万円増加しています。

流動資産は、営業活動によるキャッシュ・フローにより現預金が増加し、42億38百万円増加しました。

固定資産は、17億55百万円増加しました。主なものは、株式相場の上昇による有価証券の評価額が10億79百万円増加しました。

流動負債は、仕入債務の増加により6億10百万円、固定負債は4億3百万円、合計では10億13百万円増加しました。

純資産は、株主資本が当期純利益などにより21億39百万円増加、その他の包括利益累計額は、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定により28億21百万円増加し、純資産は49億78百万円増加しました。

その結果、自己資本比率は、80.4%になりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益46億12百万円、減価償却費21億95百万円などにより52億54百万円の流入を確保することができました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産取得による支出25億3百万円などにより27億86百万円の資金の流出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより8億69百万円の流出となりました。

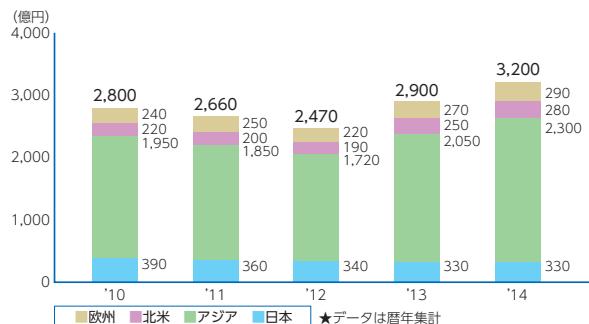
研究開発費と設備投資、減価償却費

研究開発費は15億36百万円となり、売上高に対する比率は3.3%へ上昇しました。2015年度は、新技術・新製品の開発に向けた活動をより一層強化するため、約19億円となる見込みです。

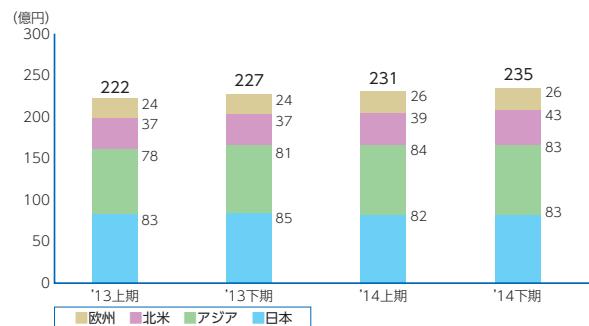
設備投資は、新製品開発や、品質向上向けなどを中心に、22億75百万円となりました。その結果、減価償却費は21億95百万円となりました。

2015年度の年間設備投資額は、製品試験所の設置、耐震補強工事などを含めた建物関係への投資を含め、全体で36億円となる見込みです。その結果、減価償却費は23億円となる見込みです。

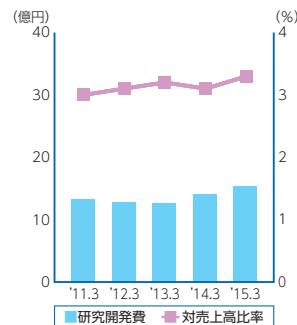
地域別固定抵抗器需要（当社推定）



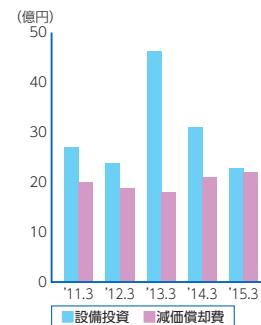
地域別売上高



研究開発費



設備投資・減価償却費



営業の概況

売上高



経常利益



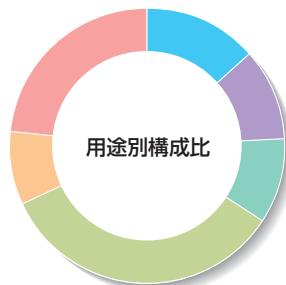
当期純利益



売上高構成比



■ 抵抗器	85.5%	■ 安全部品	4.8%
■ IC及びIC関連機器	2.7%	■ その他	4.4%
■ 高周波インダクタ	2.6%		

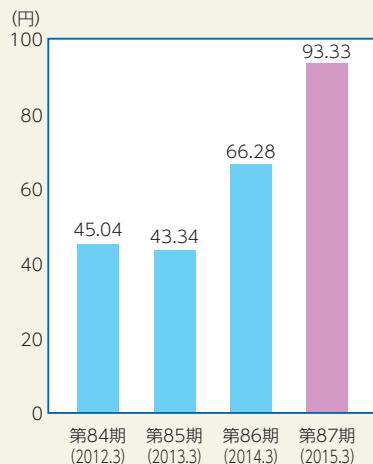


■ コンピュータ	13.6%	■ 自動車	33.9%
■ 通信機器	10.6%	■ 家電製品	8.6%
■ AV機器	10.1%	■ その他	23.2%

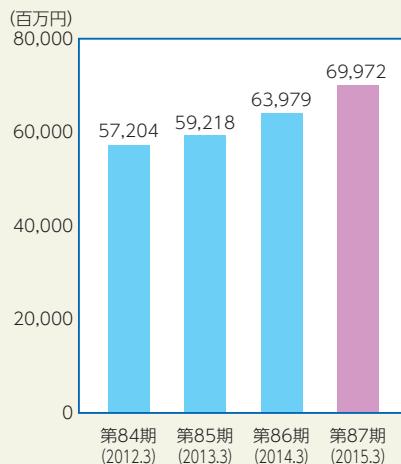


■ 日本	35.4%	■ アジア	35.9%
■ アメリカ	17.6%	■ ヨーロッパ	11.1%

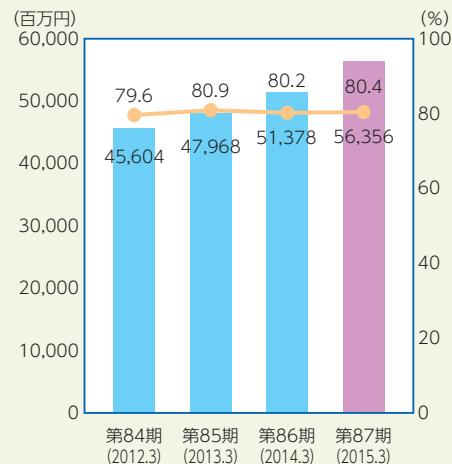
1株当たり当期純利益



総資産



純資産／自己資本比率



次期の見通し

今後の経済見通しにつきましては、米国の景気拡大等により、全体として景気は緩やかに回復するものの、欧州経済の停滞や中国経済の減速等により、世界景気の先行きの不透明感は引き続き高いものと考えられます。

当社グループの属する電子部品業界におきましても、次期の受注動向に対しては慎重な見方が必要であります。利益面においても、原材料価格の上昇、為替変動等の懸念材料があります。

このような状況を踏まえ、当社グループは、今後も抵抗器専業メーカーとして車載、航空宇宙、医療等、品質と信頼性を重視する分野と、今後の技術革新で市

場成長が期待できる分野にフォーカスし、お客様のご期待にお応えしてまいります。

具体的には、技術革新等により今後の拡大が期待される市場において、技術提案活動等の強化によって高付加価値製品の販売比率を向上させることで事業構造の改革を進め、業績向上に努めてまいります。さらに、桁違いの品質を求められる市場での競争優位性を確保するため、引き続き「ゼロディフェクト・フローの構築」を全グループの目標に掲げ、品質・信頼性向上の活動を進めてまいります。また、経費削減活動と、生産性の大幅な向上を目指した改善活動の継続により、収益性の向上を図ってまいります。

連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 2015年3月31日現在	前連結会計年度 2014年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	39,329	35,091
現金及び預金	18,619	16,018
受取手形及び売掛金	12,279	11,828
有価証券	1,057	887
たな卸資産	5,216	4,601
その他	2,192	1,449
貸倒引当金	△ 36	△ 35
固定資産	30,642	28,887
有形固定資産	22,519	22,143
無形固定資産	540	495
投資その他の資産	7,582	6,248
資産合計	69,972	63,979
(負債の部)		
流動負債	9,047	8,437
支払手形及び買掛金	4,181	3,943
短期借入金	161	128
その他	4,704	4,364
固定負債	4,567	4,164
長期借入金	424	396
その他	4,143	3,767
負債合計	13,615	12,601
(純資産の部)		
株主資本	53,656	51,517
資本金	6,033	6,033
資本剰余金	9,012	9,012
利益剰余金	41,267	39,127
自己株式	△ 2,656	△ 2,655
その他の包括利益累計額	2,609	△ 212
その他有価証券評価差額金	1,370	611
為替換算調整勘定	1,188	△ 504
退職給付に係る調整累計額	51	△ 319
少数株主持分	89	72
純資産合計	56,356	51,378
負債純資産合計	69,972	63,979

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 自：2014年4月1日 至：2015年3月31日	前連結会計年度 自：2013年4月1日 至：2014年3月31日
売上高	46,595	44,895
売上原価	32,957	32,423
売上総利益	13,638	12,472
販売費及び一般管理費	9,960	9,243
営業利益	3,677	3,229
営業外収益	1,216	881
営業外費用	246	296
経常利益	4,647	3,813
特別利益	2	3
特別損失	37	192
税金等調整前当期純利益	4,612	3,624
当期純利益	3,423	2,430

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 自：2014年4月1日 至：2015年3月31日	前連結会計年度 自：2013年4月1日 至：2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,254	5,077
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,786	△ 2,638
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 869	△ 998
現金及び現金同等物に係る換算差額	777	666
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,376	2,107
現金及び現金同等物の期首残高	14,848	12,741
現金及び現金同等物の期末残高	17,224	14,848



詳しい財務情報はWebサイトのこちらでご覧いただけます

KOA IR

検索

国内拠点紹介

水戸営業所

(2014年7月竣工)

■ 所在地：茨城県ひたちなか市足崎字西原1445-31



営業所外観

水戸営業所の建物は、1981年から33年間使用してきましたが、老朽化に伴い2014年7月、建て替えられました。新たな建物の構造は、東日本大震災の教訓から耐震性が大幅に強化されています。

基本コンセプト

水戸営業所の立地する茨城県ひたちなか市は、東日本大震災により大きな被害を受けました。幸い営業所の建屋に大きな損害はなかったものの、この大震災を教訓に、関東圏で災害が起きた際の「営業所の社員とその家族が安心して避難できる避難施設」と、「お客様への製品供給責任を果たすための拠点」の機能を併せ持つ営業所という基本コン



セプトに基づき設計、建築を行いました。

特殊基礎工法による減震構造

地盤から独立するように設置したひとつの基礎（地盤改良性体）の上に建物全体を設置することで、地震による揺れの強さの低減と液状化の発生を抑制し、さらに「T-BAGS」と呼ぶ土のうを建物の基礎に設置し、減震効果を高めています。

1階の駐車場部分は、少しでも柱の本数を少なくするべく強度が高い鉄骨造とし、2階の事務所部分は鉄骨より軽量の木造とすることで、地震発生時における2階事務所部分への地震力を小さくする効果が期待できます。

お客様が気軽に立ち寄れる木の温かみのある空間

建物の顔となる玄関のドアは、長野県産の間伐材であるサクラを材料に製作しました。木のぬくもりと優しさを感じるデザインです。お客様に気軽に立ち寄っていただける営業所にしたいという思いから、エントランスホールから2階の受付、応接室などの内装は木質の材料を使用し温かみのある空間にしました。

また、ゆったりとした執務スペースに加え、お客様をお招きして展示会やプレゼンテーションが行えるよう、約50㎡という広いプレゼンテーションルームも設けました。

環境への配慮

照明はすべて「省エネ・長寿命」のLEDです。さらに、移動空間やトイレなどの照明は照度センサーと人感センサーを採用し、省エネタイプの空調機や節水タイプの水回り器具を設置することで環境に配慮しました。

生き続ける創業の精神

～KOA創業者 向山一人

生誕100年にあたり～

「伊那谷に太陽を」

長野県南部の中央アルプスと南アルプスの間に南北に横たわる「伊那谷」。信州の雄大な自然を象徴する二つのアルプスが生み出す幾筋もの清らかな流れと、諏訪湖から流れ出す豊富な水が天竜川となり、谷を縦断しています。この豊かな自然に恵まれた谷は、かつて長野県内でも有数の養蚕地帯でした。ここに今、世界に通用する独自技術を有する大小の優良企業が立ち並びます。特に電子部品工業や精密工業などの躍進には目を見張るものがあります。

かつての養蚕地帯から豊かな田園工業地帯に姿を変えた伊那谷。その過渡期に、疲弊したふるさとを何とかしたいと心を砕いたひとりの青年がいました。KOAの創業者・向山一人（むかいやま・かずと）です。

明治から昭和初期にかけて、伊那谷に住む人々の多くは稲作などを続けながら養蚕で現金収入を得て生活していました。暮らしは決して豊かではありませんでしたが、一定の収入が確保されていました。ところが昭和4（1929）年の世界恐慌で繭価が大暴落。現金収入が断たれた農家の暮らしは一気に苦しくなっていました。

向山一人は大正3（1914）年、農家の二男として生まれました。十代後半の多感期に貧しい農村の厳しい生活を見せつけられた向山は19歳の春、電気技師を目指して上京。働きながら早稲田高等工学校に学びます。卒業後は研究所勤務などを経て、やがて当時の東京市荏原区に抵抗器を製造する「興亜工業社」を設立しました。そして翌年、故郷「伊那谷」に念願の伊那工場を設置したのです。「父母を楽にさせてあげたい」「ふるさとを少しでも豊かにしたい」と一念発起して上京してから8年、27歳の英断でした。これが、向山の夢である「伊那谷に太陽を」の第一歩となりました。



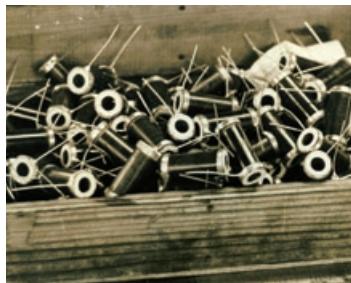
KOA創業者の向山一人
(1914-1995)



興亜工業社伊那工場の着炭炉火入れ式(1942年)



興亜工業社伊那工場(1943年)



当時のL形抵抗器



手作業による切条工程(1959年)

「農工一体」

その後、向山は伊那谷の疲弊した農村地帯に次々と工場を建設。農業を営みながら工場勤務で現金収入が得られる道を地域の若者たちに提供しました。現在のKOAにも受け継がれている経営理念「農工一体」が本格的に展開されたのです。

向山が「伊那谷に太陽を」を合言葉に「農工一体」論を唱えて興したKOAは、地域の雇用を守りながら、アジア、欧米など海外にも拠点を拡大。国内と同じように、現地の人々との信頼関係を最優先に事業を続け、創業から75年が経過した今、世界の固定抵抗器市場でトップシェアを誇る電子部品メーカーに成長しました。お客様の6割以上は海外ですが、全製品の75%以上を現在でも伊那谷で作り、創業の精神を守り続けています。

さらに、向山の努力は伊那谷に世界と渡り合える優秀な企業を次々と誕生させました。「向山さんが戦後伊那谷産業の基盤をつくってくれたおかげ」と感謝する経営者も少なくありません。

平成7（1995）年に惜しまれながら81歳で他界した向山の魂は、KOA社内はもちろん、伊那谷をはじめとする日本国内や世界各地で今も生き続けています。



山に囲まれた貧しい農村に次々と工場を建設（長野県下伊那郡南信濃村の工場地鎮祭。1973年）



長野県南部は当時過疎化が顕著だった（長野県下伊那郡阿南町の阿南興亜電工＝右側の2棟。1969年）

今も生きる創業の精神「農工一体」…地域の雇用を守り続けて



長野県下伊那郡阿智村に建設した新工場「七久里の杜」（2012年竣工）



子会社「真田KOA株式会社」の新工場「真田の郷」（長野県上田市真田町。2014年竣工）

地域のリーダーとして、また政治の場でも活躍



創業者は地域のリーダーとして、産業、教育、文化の振興にも貢献しました。

産業分野では長野県経営者協会会長などを歴任。また、教育・文化面では各種スポーツ協会役員を積極的に引き受けるなど、地域を盛り上げました。

さらに、政治の道でも活躍し、長野県議会議員、衆参両院議員を長く務め、労働政務次官などとして活躍しました。

（写真は国会本会議で発言する向山）

チップ形パワーシャント抵抗器「PSB」が発明表彰を受賞

大電流の検出回路に用いられるチップ形パワーシャント抵抗器PSBが平成26年11月、地方発明表彰関東ブロックで長野県発明協会会長賞を受賞しました。

発明表彰は公益社団法人発明協会の主催で、発明の奨励・育成を図り、科学技術の向上と産業の振興に寄与することを目的として、実用化されている優れた発明、考案、意匠を生み出した技術者、研究開発者を顕彰する制度です。

表彰は「全国発明表彰」と「地方発明表彰」に分類され、平成26年度関東地方発明表彰は10部門で504名が受賞しています。長野県発明協会会長賞は今回KOAのみが受賞しました。表彰式には、基盤技術事業化センターのこの製品開発に携った2名の技術者が出席しました。

【発明の内容】

自動車など温度変化が激しく、繰り返し大電流が流れるような厳しい環境で使われる電流検出抵抗器は、温度変化や電流の変動により各部の金属などが伸縮し、はんだ付け部分に負荷が加わることでクラックや破断などの故障につながるリスクを抱えています。

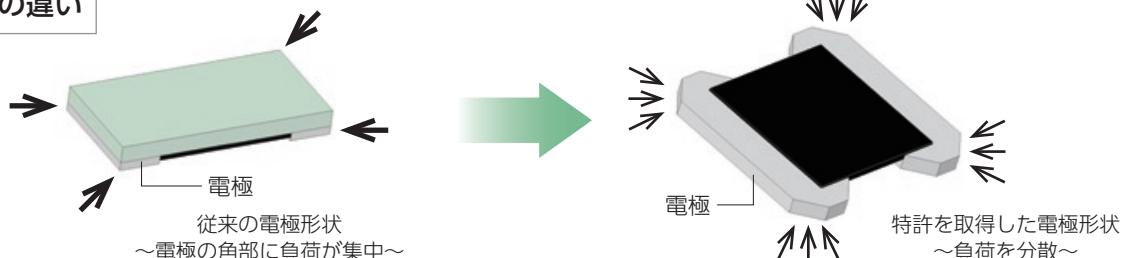


表彰式会場

これを解決するためシミュレーションなど用いて、負荷を分散させる最適な電極形状を導き出し、はんだ部分の接続信頼性向上を実現させました。

この発明を用いたチップ形パワーシャント抵抗器PSBは自動車の電動パワーステアリングや電動ブレーキなどに使われています。

電極形状の違い



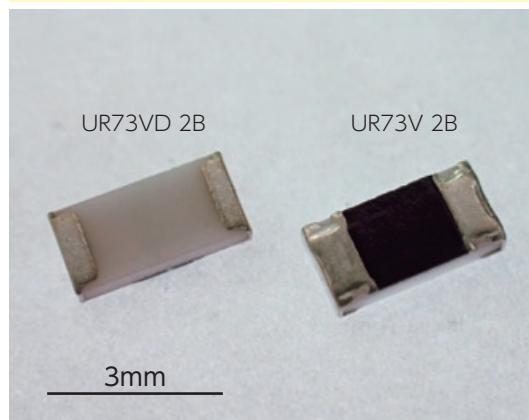
【新製品のご紹介】

車載用厚膜チップ低抵抗器 UR73V/VD 2B

近年、車載機器においては電子制御化が進み、モーターの制御などを目的とした電流検出用低抵抗器の要求がますます増加しています。これまで、高温環境下で大電流を検出する用途では金属板低抵抗器を、比較的溫度変化が小さく、小電流を検出する用途では厚膜タイプ低抵抗器を、と使い分けられてきましたが、車載機器の搭載が増えるにつれ、車室内に設置されてきた車載機器もエンジンルームへ搭載されるようになり、高温領域でも使用可能な厚膜タイプ低抵抗器が求められてまいりました。

そこでKOAは、得意とする厚膜技術を駆使してUR73V/VD2Bを開発しました。従来品に比べ温度に対する抵抗値変化が小さく、高温環境でも高精度に電流を検出することができます。車の安全に直結するきめ細かな電流検出に大きな期待が寄せられています。

車載機器の高精度電流検出に対応



巻線型雑音防止フィルタ WSF

ガソリンエンジンには低燃費化、排気ガスのクリーン化など環境性能の向上が求められています。そのため、少ない燃料で効率よく燃焼させることを目的に、点火電圧の高電圧化、エンジンの高圧縮率化・軽量化などが図られ、性能が飛躍的に進化してきました。

一方で、高電圧化に伴いスパークプラグなどから発生するノイズが増大し、ラジオへの雑音混入やECU、ETC、GPS、スマートキーなど車載電子機器などの誤動作が懸念されるようになってきました。このためスパークプラグからのノイズを従来以上に抑制するノイズ防止フィルタが求められています。

今回開発した巻線型雑音防止フィルタWSFはノイズ抑制効果が大きく、スパークプラグなどから発生するノイズを効果的に吸収します。また、お客様毎に要求される周波数帯域への個別対応が可能です。

異なるノイズ周波数帯域にも対応



「おてんとうさま」活動

KOA環境方針

出発点 どうしたら地球と調和した生き方ができるのか。
理念 KOAは信州伊那谷に生まれ、育まれてきた企業です。お百姓がお百姓として自らのふるさとで生きていけるようにとの願いで、創立しました。
 電子部品の製造に携わりながらも、土と水とおてんとうさまとおつきあいのなかで学び、生きとし生けるものの一人として地球との間に信頼関係を築いていきたいと考えます。
 社員一人一人が自分たちをとりまく水系の命の循環に関心を持ち、「おてんとうさま」（環境マネジメントシステム）を自己責任のもと実践することで、わたしたちのふるさとを舞台に生物多様性を保全し、循環型社会のモデルを創造していきます。

- 方針**
- 一、KOAは、開発・製造・販売活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確にとらえ、「おてんとうさま」（環境マネジメントシステム）を構築し、「おてんとうさま」の継続的改善及び環境汚染の予防を図る。
 - 一、KOAの環境活動は、社会環境対応を「おてんとうさま」活動とし、製品環境対応を品質保証活動として展開する。
 - 一、KOAの環境側面に適用可能な法規制、KOAが同意するその他の要求事項（お客様要求事項を含む）及び自主基準を順守し、環境マニュアル・品質マニュアルを基に全社員が自然環境に配慮した行動をする。
 - 一、本方針の理念に基づいて行動するため、環境に調和した業務や有限な資源の有効利用、環境負荷の少ない製品・工程、地球温暖化防止（省エネルギー）を追求し実現する環境改善活動を環境目的・目標の枠組みとして、毎年見直しをする。
 - 一、内部環境監査を実施し、自主管理による「おてんとうさま」の維持向上に努める。
 - 一、この環境方針は、KOA及びKOAグループにおいて、環境活動に携わる全ての人に周知し、環境意識の向上を図る。

2013年4月1日

KOA株式会社 代表取締役社長 花形 忠男

「おてんとうさま」活動の成果

注：今年度から、国内KOAグループの排出量を掲載しております。

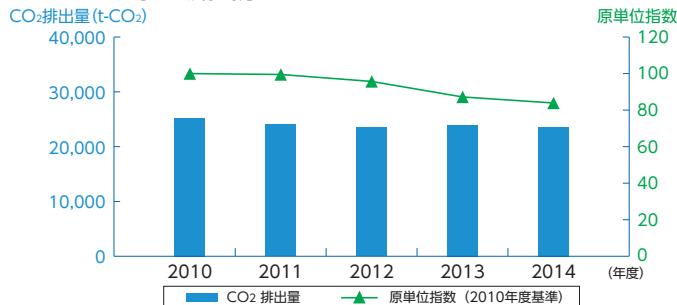
循環型社会のモデルづくり

1 有限な資源の有効活用



国内KOAグループでは、2011年度より「ゼロエミッションを維持し、製品1個当たりの排出物(原単位)を2010年度以下にする」を目標に3R活動に取り組んでいます。めっき廃液を除く排出物の原単位は、生産数の増加による影響もありましたが、材料を効率的に使用する取り組みなどにより2010年度比13.7%低減しました。めっき廃液は、社内処理拡大の継続、生産の効率化などに加え、リサイクルシステムの実験を開始し、総量で2010年度比約75%低減することができました。

2 地球温暖化防止



国内KOAグループでは、「2015年度のエネルギー起源CO₂排出量原単位を2010年度比5%低減」を目標に省エネに取り組んでいます。2014年度は電気料金の値上げや燃料調整費の高騰も考慮しエネルギーのムダ防止のための運用管理強化を継続すると共に、新たにグループ全体でユーティリティ設備の計画的更新による効率的な運転を目指した取り組みを開始しました。これらにより生産に伴う電力増加を抑制することができました。

会社概要 (2015年3月31日現在)

会社概要

社名	コーア KOA株式会社 (KOA CORPORATION)
所在地	本社 〒399-4697 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016番地 KOAパインパーク内アースウイング TEL：0265-70-7171（代表） （登記上の本店） 長野県伊那市荒井3672番地
創立	1940年3月10日（昭和15年）
資本金	6,033百万円
事業内容	各種電子部品の開発・製造・販売

取締役及び監査役

代表取締役会長	向山 孝一
代表取締役社長	花形 忠男
常務取締役	深野 香代子
取締役	中田 典明
取締役	林 琢夫
取締役	百瀬 克彦
取締役	野々村 昭
取締役	山岡 悦二
※取締役	マイケル・ジョン・コーバー
常勤監査役	遠藤 和夫
監査役	澤 良一
※監査役	上拾石 哲郎
※監査役	重宗 信行

(注) ※印の取締役及び監査役は社外役員であります。

KOAのIRサイトをご覧ください



IRサイトTOP



財務ハイライト



営業の概況

決算関連資料のご案内

事業報告書・中間事業報告書のバックナンバーなど資料のご提供の用意がございます。ご希望の方は下記あてにご照会ください。

事業報告書・中間事業報告書 |
決算短信 | 四半期決算短信

【お問い合わせ】

KOA株式会社 経営管理イニシアティブ
総務センター

TEL:0265-70-7171

FAX:0265-70-7711

www.koanet.co.jp/ir/index.html

本社・技術拠点

本 社 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内アースウイング
〒399-4697 ☎ 0265 (70) 7171
FAX 0265 (70) 7711

経営管理イニシアティブ

経営戦略センター ☎ 0265 (70) 7173
FAX 0265 (70) 7992

総務センター ☎ 0265 (70) 7171
FAX 0265 (70) 7711

人事教育センター ☎ 0265 (70) 7177
FAX 0265 (70) 7711

知的財産センター ☎ 0265 (70) 7179
FAX 0265 (70) 7712

情報システムセンター ☎ 0265 (70) 7275
FAX 0265 (70) 7276

CSR推進センター ☎ 0265 (70) 7065
FAX 0265 (70) 7994

ものづくりイニシアティブ ☎ 0265 (70) 7175
FAX 0265 (70) 7712

伊那事業所 長野県伊那市荒井3672
〒396-8585

品質保証イニシアティブ ☎ 0265 (73) 9156
FAX 0265 (78) 2128

ハローウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内 〒399-4697

ものづくりイニシアティブ
生産戦略センター ☎ 0265 (79) 1481
FAX 0265 (79) 1409

営業拠点

目 黒 東京都目黒区中根2-15-12
〒152-0031 ☎ 03 (5731) 3820
FAX 03 (5731) 3826

日本営業ビジネスフィールド
営業支援センター ☎ 03 (5731) 3820
FAX 03 (5731) 3826

むさし野工房 東京都府中市緑町2-17-2
〒183-0006 ☎ 042 (336) 5300
FAX 042 (336) 5353

事業構造改革イニシアティブ ☎ 042 (336) 5300
FAX 042 (336) 5353

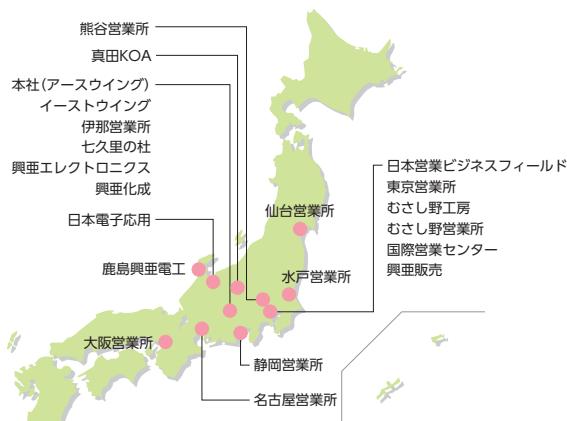
国際営業センター ☎ 042 (336) 5755
FAX 042 (336) 5353

(各営業所)

仙台営業所 仙台市宮城野区榴岡5-12-55NAVISビル5F
〒983-0852 ☎ 022 (292) 3303
FAX 022 (292) 6606

水戸営業所 茨城県ひたちなか市足崎字西原1445-31
〒312-0003 ☎ 029 (273) 4651
FAX 029 (274) 8824

熊谷営業所 埼玉県熊谷市箱田5-4-5
〒360-0014 ☎ 048 (522) 2651
FAX 048 (523) 4338



むさし野営業所 東京都府中市緑町2-17-2
〒183-0006 ☎ 042 (336) 5757
FAX 042 (336) 5353

東京営業所 東京都目黒区中根2-15-12
〒152-0031 ☎ 03 (5731) 3821
FAX 03 (5731) 3827

名古屋営業所 名古屋市名東区社台3-230グランドビル4F
〒465-0092 ☎ 052 (774) 2821
FAX 052 (774) 2891

静岡営業所 静岡県駿河区馬淵3-2-25 TKビル5F
〒422-8063 ☎ 054 (282) 5166
FAX 054 (282) 5466

伊那営業所 長野県伊那市荒井3672
〒396-8585 ☎ 0265 (78) 6622
FAX 0265 (78) 5266

大阪営業所 大阪市淀川区西中島7-1-5辰野新大阪ビル6F
〒532-0011 ☎ 06 (6885) 0822
FAX 06 (6885) 6388

七久里の社 長野県上伊那郡阿智村春日1088-1
〒395-0301 ☎ 0265 (45) 1711
FAX 0265 (45) 1717

MINOWAウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内
〒399-4697 ☎ 0265 (79) 8471
FAX 0265 (79) 7079

国内グループ会社

興亜エレクトロニクス株式会社

長野県下伊那郡阿南町西条733 〒399-1504
☎ 0260 (22) 2261 FAX 0260 (22) 3356

興亜販売株式会社

東京都千代田区神田須田1-7-1高橋ビル3F 〒101-0041
☎ 03 (3255) 5521 FAX 03 (3251) 7648

真田KOA株式会社

長野県上田市真田町長5688-6 〒386-2201
☎ 0268 (72) 3770 FAX 0268 (72) 8232

鹿島興亜電工株式会社

石川県鹿島郡中能登町武部は部11 〒929-1802
☎ 0767 (76) 1111 FAX 0767 (76) 0500

日本電子応用株式会社

富山県砺波市矢木137 〒939-1317
☎ 0763 (33) 5700 FAX 0763 (33) 5755

興亜化成株式会社

長野県伊那市御園180-2 〒396-0022
☎ 0265 (72) 7264 FAX 0265 (76) 0006

生産拠点

イーストウイング 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
KOAパインパーク内
〒399-4697 ☎ 0265 (79) 9080
FAX 0265 (79) 9079

箕輪工場 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪8633
〒399-4601 ☎ 0265 (70) 5390
FAX 0265 (79) 8980

西山工場 長野県伊那市西箕輪2445
〒399-4501 ☎ 0265 (73) 7166
FAX 0265 (73) 6112

中央工場 長野県上伊那郡南箕輪村5061
〒399-4511 ☎ 0265 (77) 3513
FAX 0265 (72) 4397

匠の里 長野県飯田市桐林2441-1
〒399-2565 ☎ 0265 (26) 7708
FAX 0265 (26) 7732



海外の拠点

アメリカ/KOA SPEER ELECTRONICS, INC.

199 BOLIVAR DRIVE BRADFORD PA
16701 USA
☎ (1) 814-362-5536
FAX (1) 814-362-8883

ドイツ/KOA Europe GmbH

KADDENBUSCH 6
D-25578 DÄGELING ITZEHOE GERMANY
☎ (49) 4821-89890
FAX (49) 4821-898989

マレーシア/KOA DENKO(MALAYSIA)SDN.BHD.

LOTS 7,8&9 BATU BERENDAM, FTZ
75350 MALACCA, MALAYSIA
☎ (60) 6-2328031
FAX (60) 6-2328030

シンガポール/KOA DENKO(S)PTE.LTD.

72 BENDEMEER ROAD #06-28
LUZERNE SINGAPORE 339941
☎ (65) 63395151
FAX (65) 63398556

タイ/KOA DENKO(S)PTE.LTD.

THAILAND REPRESENTATIVE OFFICE
38 Q.HOUSE CONVENT BLDG.7TH FLOOR
UNIT 7CD,
CONVENT RD.,SILOM, BANGRAK, BANGKOK
10500 THAILAND
☎ (66) 2632-0382
FAX (66) 2632-0903

中国/上海興亞電子元件有限公司

中国上海市漕河泾新興技術開發区桂平路581号
☎ (86) 21-64850723
FAX (86) 21-64852960

中国/上海可爾電子貿易有限公司

中国上海市漕河泾新興技術開發区桂平路581号
☎ (86) 21-64320101
FAX (86) 21-64320083

中国/無錫興和電子陶瓷有限公司

中国江蘇省宜興市和橋鎮西鋤村向山路1号
☎ (86) 510-87871645
FAX (86) 510-87871626

中国/興和電子(太倉)有限公司

中国江蘇省太倉市太倉經濟開發区洛陽東路77号
☎ (86) 512-53561111
FAX (86) 512-53561600

香港/KOA ELECTRONICS(H.K.)LTD.

UNIT 2315, METROPOLIS TOWER, 10
METROPOLIS DRIVE
HUNGHOM, KOWLOON, HONG KONG
☎ (852) 2492-6918
FAX (852) 2492-7398

台湾/大興電工股份有限公司

中華民國台北市南京東路1段34号平安大樓11樓
☎ (886) 2-25214166
FAX (886) 2-25641859

台湾/高雄興亞股份有限公司

中華民國高雄市楠梓加工出口区開發路17之2号
☎ (886) 7-363-4157
FAX (886) 7-363-4543

株式の状況 (2015年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000 株
発行済株式の総数	40,479,724 株
株主総数	6,372 名

上場証券取引所

東京証券取引所 市場第一部
名古屋証券取引所 市場第一部

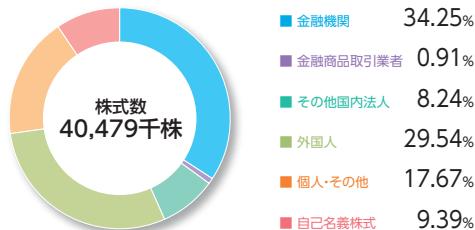
大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
CREDIT SUISSE AG	3,461,200	9.44
日本生命保険相互会社	2,226,650	6.07
株式会社八十二銀行	1,832,400	4.99
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,452,100	3.96
CREDIT SUISSE AG SINGAPORE TRUST A/C FOR PHYCOMP HOLDING B. V.	1,279,700	3.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,226,100	3.34
BNP PARIBAS WEALTH MANAGEMENT HONG KONG BRANCH	1,193,000	3.25
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,000,000	2.72
BANK JULIUS BAER AND CO. LTD. SINGAPORE CLIENTS	871,900	2.37
日本電気株式会社	868,333	2.36

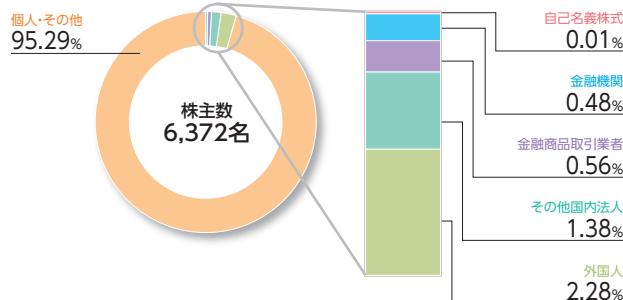
(注) 1. 当社は、自己株式3,801,813株を保有しておりますが、上記には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式の分布状況

【所有者別持株比率】



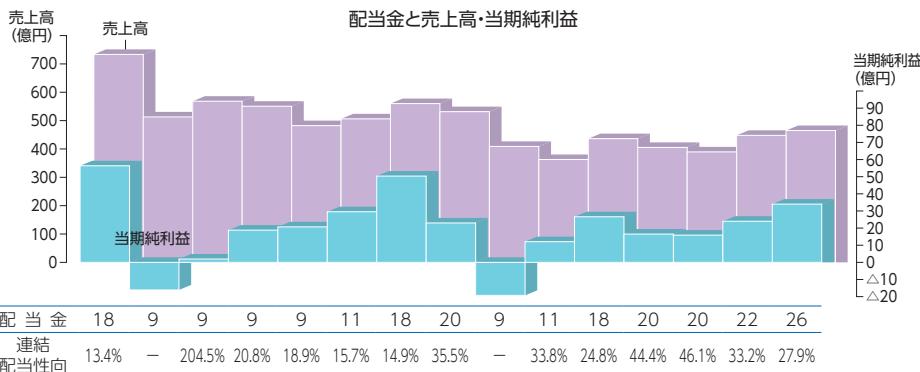
【所有者別株主比率】



連結配当性向

<配当政策>

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要政策のひとつと考えており、急速な技術革新に対応した設備投資や研究開発による競争力の維持・強化及び財務体質の強化を図ると同時に、配当水準の安定と向上に努めることを基本方針としております。



株式の手続きに関するご案内

●特別口座で株式をご所有の株主の皆様へ

株券電子化により、すべての上場会社の株式は、証券会社などの口座管理機関の口座にて電子的に管理されております。株券電子化移行時点で、ご所有の株式を証券保管振替機構（ほふり）に預託されなかった株主様につきましては、当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行に「特別口座」を開設させていただいております。しかしながら、特別口座の株式につきましては、特別口座のままでは売買ができませんので、特別口座から証券会社口座への振替等をお願いいたします。

▶特別口座に記録されているかどうかのご確認方法について

下記、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

▶特別口座から証券会社口座への振替方法について

特別口座に記録されている株式を市場にて売却される際には、証券口座へ振替のお手続きが必要となります。あらかじめ証券会社に株主様の口座を開設いただき、振替申請を行っていただきますようお願いいたします。

※すでに株主様が証券会社に口座をお持ちの場合は「② → ③」の手順のみとなります。



▶証券会社口座への振替以外に、売買を行う方法について（単元未満株式に限る）

当社は単元（100株）未満株式の買取・買増制度を採用しております。特別口座に記録された単元未満株式について当社へ買取または買増請求を行うことができますので、三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。なお、買増請求を行っていただき単元（100株）株式にされても、特別口座では株式の売買ができませんので、証券会社口座を開設され、証券会社に振替えたうえで、単元株式になるようご請求※いただくことをおすすめいたします。

※証券会社口座に振替後のお手続きにつきましては、口座を開設された証券会社にご依頼ください。

買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が市場価格で買取らせていただく制度です。

買増制度

ご所有の単元未満株式と併せて1単元株式（100株）となるように、株主様に当社から不足分の株式を市場価格でご購入いただく制度です。

〈具体例〉

株主様が現在70株をご所有の場合、当社を通じて30株をご購入いただき、合計100株とすることができます。



●お問い合わせ先

特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

（連絡先）

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711（通話料無料）

（窓口によるお取り次ぎについて）

三菱UFJ信託銀行 本店及び全国各支店においても受付けております。

株主の皆様のお声を聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 6999

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.koanet.co.jp/index.htm ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行で承りますので、左記までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

表紙
「蚊取り線香」
絵：今村由男
長野県生まれ。日本版画協会会員。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



www.koanet.co.jp